



## 4年間有難うございました！



アイラム・スクールのポール校長とは、しばしば話をしてきました。アイラム・スクールにはどの教室にも、必ず世界地図が貼ってあり、その教室の児童生徒の出身国がわかるように掲示されています。聞けば60カ国以上の子どもたちが通ってきているとのこと。すなわち、たとえ髪の毛の色や目の色、肌の色が違っていても、「みんな違ってみんな一緒」を教えてください。言わば、その教育の対象者はニュージーランド出身の子ども達に留まらず、世界の国々の子どもたち全

てということになります。これは大変素晴らしいことだと思います。普通一般的に、ある国の教育はその国の子どもたちのために考えられています。それは決して間違っていることではありません。国の方針とすれば当然のことです。日本の教育もそうです。「グローバル教育」を掲げながら、その定義は「自分の国や地域の伝統や文化についての理解を深め、人権、平和、異文化などのテーマを世界規模でものごとを考える力を身につけるための教育」となっています。世界的視野で考える力をつける教育ですが、その対象者はやはり「日本人」です。日本在住の他国籍の子どもは、その対象に入っていません。私が経験したオランダでもアメリカでもそうでした。そう考えると南太平洋の小さな島国ニュージーランドはこの国の特殊性もありますが、世界に先駆けた先進的な教育を行っていると言えます。



随分昔の話になりますが、私の小中学校時代は「自分の世界」の範疇は学校区域でした。仲間も全員同じ学校の友達でした。行動範囲も全て小学校区内でした。遊びの場所も何かで買い物に行く場所も学校区域からほとんど出ることはなかったです。時々両親に連れられて行った中心街のデパートは別世界のことでした。中学校になっても多少その行動範囲が広がったにせよ「自分の世界」は相変わらず中学校区域内でした。それが一般的で周りの友達もみんなそうだったと思います。すなわち、小中学校時代の「私の世界」は金沢市の、とある一地区の範囲で、意識もその中でしか得られないことでしかなかったのです。



カンタベリー補習校の子どもたちの意識の根底には、すでに日本が含まれています。現地校で常に世界を意識した教育の基盤があります。その上に、彼等の「My World」は、赤道を超えて反対側にあるJAPANにも及んでいます。これは大変素晴らしいことであり、同じ年齢で一地方都市の一学区域の中での世界しか知らなかった者にすれば、とてつもなく羨ましいものです。彼等の「My World」は現地校で学習した世界の上に、補習校で学習した日本というものが覆い被さり、これからどのように

広がって行くのでしょうか？その広がりを見守る補習校がいささかなり手伝っているとしたら、これもまた大変嬉しいことに違いありません。

本年度はコロナウイルスに翻弄された1年でした。年度当初は入学式を始め3週間分の授業を行うことが出来ませんでした。それが年間計画を狂わせました。「補習校まつり」も例年のように行うことは出来ませんでした。ただ、それでも世界各国の状況から見れば、ニュージーランドにある本校は影響が少なかった方のように思われます。

私は4年間の本校での任期を終え、帰国の途につきます。現在、日本は緊急事態宣言が延長され、大変厳しい状況のようです。文部科学省からは日本到着後の2週間の隔離生活を含めて3月中に帰国せよとの通達を受けました。それにより、私の本校勤務は3月6日が最後になり、卒業式で卒業証書を手渡すことができません。大変残念です。



教師の仕事は子ども達を教えることです。でも、逆にいつも子ども達からエネルギーを貰っています。そのエネルギーを糧に頑張ることができました。本当に子ども達に感謝しています。最近、私の帰国の報を耳にしたのか、感謝や労いの言葉を頂く機会が増えました。何人かの卒業生も訪ねて来てくれました。大変有り難く嬉しく思います。保護者の皆様にも、この4年間本当にお世話になりました。色々ご迷惑をかけたことが多々あったかと思いますが、お許し願います。上記のように、本校の児童生徒は本人が気がつかないまでも、世界的な知識と感性が養われる素晴らしい環境の中で成長しています。このようなカンタベリー補習校を生かすも殺すも保護者の皆様次第です。どうか、この子ども達にとって素晴らしい豊かな環境であることをご理解頂いた上で、今後とも補習校教育に対して、ご支援ご協力を賜ることを切にお願いして、帰国のご挨拶とさせていただきます。

4年間、本当に有難うございました。

カンタベリー補習校

第5代校長 荒井 秀典